

## 論文内容の要約

|   |  |
|---|--|
| 論文名   | Advantage of Insulin Glulisine over Regular Insulin<br>in Patients with Type 2 Diabetes and Severe Renal Insufficiency |
| 氏名  | 浦田 博美  |
| <p>【目的】糖尿病腎不全・透析患者での血糖管理は低血糖の回避が優先される。今回、持続血糖モニター(CGM)を用いて、糖尿病腎不全患者の血糖を連続モニターし、超速効型(Q:glulisine)の速効型インスリン製剤(R:regular)に対する優位性を検討した。</p> <p>【方法】対象は eGFR 30mL/min/1.73m<sup>2</sup> 未満の糖尿病保存期腎不全患者 18 名（男/女 15/3、年齢 64.8±9.2 歳、HbA1c 7.2±1.4%、eGFR 13.2±6.3mL/min/1.73m<sup>2</sup>）で、入院後、経口糖尿病薬はすべて中止し、血糖管理は毎食前の R3 回で行った。R の投与量決定後、第一日目 R3 回、第二日目は同単位の Q3 回で、CGM を用いて血糖を連続測定した。</p> <p>【結果】R での血糖平均値 167.8±65.7mg/dL に対し、Q では 159.4±52.4mg/dL と有意に低下(P&lt;0.0001)した。食後血糖の改善は、食直前血糖値を基準値(0)とし、朝食後は 240 分間、昼・夕食後は 360 分間の血糖変化量を 5 分毎に CGM で測定した。この間の血糖下面積 (AUC)を算出すると、(朝食・昼食・夕食)後の AUC はそれぞれ R 群で(11.1±9.7・7.6±15.7・11.8±11.1)×10<sup>3</sup>mg/dL・min に対し、Q 群では(5.9±8.4・13.6±11.5・3.3±13.1)×10<sup>3</sup>mg/dL・min であり、朝・夕食後の血糖上昇が有意に抑制されていたが、昼食後は逆に R で低下傾向が見られた。血糖変動の指標である Mean Amplitude of Glucose Excursion (MAGE)は、R;100.4±53.7mg/dL に対し Q;88.7±38.1mg/dL と低下傾向が見られた。</p> <p>【結論】糖尿病腎不全患者で、朝食(p = 0.028)・夕食(p = 0.023)後の血糖上昇は Q で有意に抑制された。昼食後には逆に R で血糖上昇の抑制傾向がみられ(p = 0.099)、朝食時の R の効果遷延が疑われた。また、Q において MAGE の低下傾向をみとめた。糖尿病腎不全患者では、R に比較し Q の食後血糖上昇抑制における有効性と遷延性低血糖をきたしにくい安全性が示唆された。</p> |  |